

浦幌町立博物館だより

令和2(2020)年7月号

編集・発行：浦幌町立博物館 ☎089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / ☎015-576-2009 / ✉museum@urahoro.jp

尺別炭鉱閉山50年

十勝で唯一の炭鉱マチだった浦幌ですが、浦幌炭鉱と密接な関係にあったのが、山を挟んで東側にあった尺別炭鉱です。浦幌炭鉱は独自の鉄道を持たず、採掘した石炭は、全て尺別炭鉱経由で出荷していました。

尺別炭鉱は、阿寒の雄別炭鉱や白糠町の上茶路炭鉱とともに、1970(昭和45)年に閉山。今年は閉山から50年にあたります。

浦幌を支えた尺別

尺別炭鉱は、釧路市音別町(旧白糠郡音別町)に位置しています。操業開始は、浦幌と同じ1918(大正7)年。鉄道を敷設できなかった浦幌炭鉱と異なり、尺別炭鉱は1920(大正9)年には、海岸沿いの国鉄尺別駅との間に、軽便鉄道を敷設していました。

炭鉱と浦幌駅を結ぶ鉄道の敷設を断念した浦幌炭鉱は、掘り出した石炭を、索道で山越えをして尺別へ送り出し、一緒に出荷する方法を選択したのです。



釧路空港から新千歳空港へ向かう旅客機から見下ろした、浦幌炭鉱と尺別炭鉱。(撮影：持田誠)

1942(昭和17)年、浦幌炭鉱と尺別炭鉱の間に、全長約7kmのトンネル「尺浦通道」が開通。線路を敷設して「電車」が往復するようになり、石炭と共に人の往来も活発になりました。この年、軽便鉄道も国鉄と同じ規格の尺別鉄道となりました。

1954(昭和29)年、ひとあし先に閉山した浦幌炭鉱の歴史は、尺別炭鉱に支えられている部分も大きかったです。尺別の記憶は、音別町ふれあい図書館で紹介されていますので、ぜひいちどお出かけください。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)

「コロナな世相」を伝える

こんな資料を集めています!

妊婦さん応援マスク



浦幌神社の方々が手作りした、うすすら「豆しぼり」なガーゼマスク。安産の守護神である乳神神社の春季祭でおはらいされている。神様のご加護のもと、妊婦さんが少しでも穏やかな気持ちで出産できるようにとの願いがこめられている。

(奇贈：浦幌神社 背古宗敬宮司)

Pick up BOOK [注目の本]

図書館から

『マンガでわかる東大読書』



西岡啓誠(原案)・小野洋一郎(著)

東洋経済新報社刊

2020年4月24日 発行

四六判 並製 224頁

【図書館での配架場所】

新刊コーナー

分類記号(背ラベル)→

019.12

読書が大嫌いな主人公が、本の「5つの読み方」を学び、読書に挑戦する様子がユニークに描かれています。活字が苦手な、ふだん全然本を読まない方でも、漫画ですのでより気軽に読めると思います。

この本で新たな本の読み方を発見できるのではないのでしょうか? 「5つの読み方」が何であるのかは、ぜひこの本を手にとって学んでみて下さい。

(浦幌町立図書館 司書 山崎菜摘)